

# 舟入 20期同期会便り

2005年 7月  
(第8号)

同期会ホームページ <http://funairi.hp.infoseek.co.jp/>

第8号発刊に寄せて 末田義博(同期会 会長)

同期生の皆さん、お元気で過しのことと想います。皆様も、地震や考えられない凶悪事件など、異常な現象頻発等、何かがおかしいと感じておられるのではないのでしょうか。

あらゆる面で、安全・安心な社会の実現を求めているにも拘らず、根本的な解決策は未だ見出せないのが状況です。本来責任を伴った個人主義が、今や無秩序な自由を叫ぶ孤人主義に陥ったためと考えられます。権利より義務を、自分より他人を、個より全体を優先する考えに切り替える必要を感じております。

また、先日のJR福知山線の事故で感じたことは、文明の負の部分です。際限なき競争社会がもたらす負の部分を感じざるを得ませんでした。

昨年11月、関東地区在住の同期生が卒業後初めて集まり旧交を温められました。高倉君、鈴鹿君の便りを見て、懐かしく思った次第です。今後とも各地でこのような同期の輪が広がれば、心強いと思います。

さて、昨年8月より私が同窓会副会長(市女原爆死没者慰霊式典担当)、赤峰敬子さん(総会企画運営・広報誌担当)、岡崎研児さん(総務担当)が同理事として承認され、現在、其々の立場で同窓会活動に協力させて頂いておりますのでご報告いたします。

昨年お届けした同期会便り第7号では、同窓会理事として3名(赤峰敬子、岡崎研児、中脇令子)ということでご報告させていただいておりましたが、同窓会との最終調整の結果、当面、20期からは理事として2名という運びとなりました。誠に勝手ながら、上記3名の方々と協議させていただき、それぞれの方の了解を得て上記のとおり決めさせていただきましたのでよろしく申し上げます。

例年、8月6日には市女原爆死没者慰霊式典を同窓会主催で行っておりますが、今年は被爆60周年を迎え、「追悼と被爆体験の継承、恒久平和の実現」というコンセプトを掲げ、記念誌を作成いたします。

また、現在、同窓会の活性化対策として、舟入側代表委員の実効性のある選任、先輩による在校生への講演会開催、記念同期会への補助、同窓会費の納入率の向上などを行っています。

20期の同期会活動は最も活発な期として同窓会から注目されており、同窓会費についても、20期は最も納入額が多くなっています。ひとえに、同期生の皆様の協力によるものと心から感謝しております。引き続き、同期会、同窓会活動に格別のご支援の程、重ねてお願いいたします。

第29回広島市立第一高等女学校職員生徒原爆死没者慰霊式典  
日時：平成17年8月6日(日)午前10時～  
場所：平和大橋西詰 広島市立第一高等女学校慰霊碑前  
主催：広島舟入市女同窓会

第28回 舟入・市女同窓会

と き：平成17年8月20日(土)16:00～(受付15:00～)

ところ：広島全日空ホテル

かいひ：7,000円

\*チケット購入等詳しくは、末田義博までお尋ねください。

余命？ (3年5組)高倉 秀一 (同期会関東地区世話役)

昭和39年(1964年)10月、東京オリンピックが終わった頃、大阪府の南の端(和歌山との県境)から広島市に転居しました。当時中学校2年で岬町立岬中学校から広島市立江波中学校への転校です。

幼稚園を中退し、小学校を2回転校(3つの小学校を経験)そして、中学校は1回の転校です。この昭和39年が最後の転校でした。朝礼などで整列するといつも1番目か、せいぜい

2番目になる程度の身長しかないチビで、そのチビが何かつけて、目障りなのでしょうか。転校するとすぐ喧嘩でした。でも、これによって比較的早く、『先住民』と仲良くなれたものです。

物心ついたころから、新天地で思うことは、「クラスみんなに早く溶け込めるかな〜、嫌われなかな、そして、いつまでここに居られるのだろうか」でした。ですから、教室内ではできるだけ目立たないように振舞うことが肝心でした。特に授業中は、絶対に自ら手を挙げたり、発言したりしません(これには、言葉の問題もありますが・・・)。いやなことですが、子供ながらに処世術を身につけていたのです。その割には、大人になってからの身の処し方が非常に下手ですが・・・。

転校するたびに、友達と分かれる訳です。こいつと何時まで仲良くしていただけるのだろうか・・・と、いつも『余命』〜非常に大げさな表現ですが〜を考えた生き方をしていました。

総合建設業、通称ゼンコンに就職しました。転校ばかりでしたので、転勤の殆どない建築設計部を希望し3年間在籍、その後技術研究所にて約27年勤務しましたが、妙な縁から電材設備(電池、電線、蛍光灯からエレベータ、立体駐車場などまで取り扱う)商社に転職しました。歳をくっていますが、当然新参者ですから『先住民』への遠慮と新会社での『余命』を考えて振舞っています。ここでは新規事業を立ち上げるのが私のミッションです。当社に持ち込まれる物件、技術などの良否については、30年間のキャリアと様々な分野の技術者人脈がありますので心配いりません。問題は、マーケティングと事業収支のチェックです。10年以上前に読んだ経理、会計の本を引っ張り出して眺めたり、インターネットで勉強させていただきました。

再就職して若干ゆとりもできたのでしょうか。残り少ない会社員としての『余命』をどのようにしようかと考え始めました。

ここ数年、某学会にて、小・中・高生の理科系離れをくい止めるために文部科学省の補助金でセミナーや講習会を開催したり、日本技術者教育認定機構(JABEE)が行う大学、高等専門学校の技術者教育プログラム(教育のISO版といえるシステム)の認定にも関与しています。

また、小学校や高校で自分の専門をかみ砕いて話す「出前レクチャー」(つくば市教育委員会主催)も行っています。もともと技術屋ですから、技術を中心にした『余命』活動しか思い浮かびません。その手始めとして、『MOT (Management of Technology): 技術経営』の勉強があります。

最近、多くの大学が特に社会人を対象に大学院を設けています・・・が、授業料が非常に高く、入学どころではありません。ただ今、通勤電車の中で本を読んでいます。

上述のように立派なことを考えていますが、元来怠け者ですので土・日曜日には小説を読み、洋画ビデオの鑑賞にふけったり、ごろ寝をしたり、たまには、気が向けば下手なゴルフの練習に参ります。

わたしの余命の目標はどうなるのでしょうか。思いついたことを実行に移しておれば、どのくらい素晴らしい人間になっていたことかと、悔やんでおります。残念！！



高倉 秀一

**舟入スピリット** (3年1組) 内藤(旧姓 三宅)幸子



三宅 幸子

高校を卒業して早、37年余過ぎてしまいました。高校時代はクラブ活動に励み、顔が白くなる間もなく、一年中日焼けした顔でテニスボールを追っていたところが懐かしく思えます。

あのころは、業間体操やサービスボックスの奉仕活動、宿泊を伴った生活実習などいろいろな体験活動がありました。振り返ってみればとても懐かしい思い出です。サービスボックスの日には、学校周りの掃除をしながら近くのパン屋さんでパンを買ったことがあり、生活実習もみんなと学校内で宿泊をして、みんなと料理を作り、みんなと作法を学び、みんなと楽しく夜を過ごした日も懐かしく憶えています。

教育現場にいる私にとって、あのころの教育は画期的な取り組みだったと思います。それに「己に徹して人のために生きよう」という舟入高校の校訓は、今の時代に不可欠な人の生き方を示しているとても素晴らしいものだと思えます、自分の立場を優先する昨今ですが、舟入スピリットを学んだ私は、これからの人生に舟入スピリットを生かして生きていけたらと思っています。

(追伸)

今春の異動で似島学園小学校に転勤になり、毎朝船に揺られながら通勤しています。潮風を感じながら船から見る朝日は格別です。又、帰りの夕日も本当に素敵で、この夕日を見て一日の疲れを癒しています。似島は四季折々の顔を見せ、いろいろな色を目にすることができます。こんな自然に恵まれた環境で仕事ができる今、とても幸せを感じています。

**今の自分を楽しみたい** (3年3組) 田川 清



田川 清



5月8日「母の日」に、91歳の母と妻の3人で倉橋島の桂浜温泉に行ってきました。

母は3年前、意識をなくして転倒してからはペースメーカーのお世話になりました。

その後、入院中にまた転倒し、股関節骨折のため人工骨頭の手術を受け、半年後には白内障の手術と、次から次へとやって来る障害を乗り越えてきました。当時は、まさか自力で風呂に入り“足が軽くなって、温泉は気持ちよかった”と言ってくれる母の言葉が聞ける日が来ようとは思っていませんでした。この日が迎えられたことを妻と二人で感慨深く語り合った今年の「母の日」でした。

舟入高校を卒業して36年、結婚して25年、妻が看護婦をしていたので共働きになりました。そのため子育て・家事等に関わることになり、自立することができました。

仕事は独りで「ガラス屋」を32年続けています。これまでは自分の力以上の欲を出し、その結果借金もしました。子供の教育問題もありました。妻・母の病気など・・・・・・。

失敗や挫折、落ち込んだときいつも力になってくれたのが友人であり、仲間であり、家族でした。

これから迎える老後を思うとき、“今の自分を楽しめる人”になろうと思っています。同期の仲間や知恵や汗を出し合えば“楽しい老後”も夢ではないと思います。

また元気でお会いしましょう！

舟入高校卒業後36年を思う (3年10組) 鈴鹿 勇二

寝台特急「あさかぜ号」が今年2月末で廃止になりました。それを聞いて心の中で何かがコトッと音を立てたように感じたのです。36年前の昭和44年2月のある日、東京の大学を受験する為に広島から「あさかぜ号」に乗って東京を目指したことを思い出したのです。

あの日の朝、6時半過ぎに列車が横浜駅に滑り込んだ時、ホームには「ブルーライトヨコハマ」が流れていました。いしだあゆみの甘酸っぱい歌声を今でもはっきりと覚えています。

生まれて初めて故郷から800キロも離れた大都会に降り立ち、武者震いしたことが昨日の事のようにです。時はあたかも大学紛争の真っ只中で、入学試験は池袋の予備校で行われ、会場の周りではヘルメット姿の革マルや中革の闘士が機動隊と小競合いをしていました。大学には入ったものの入学式は勿論のこと、授業も行われずロックアウトされた大学を遠巻きにして眺めているだけで、時間だけが無情に流れて行きました。

六畳一間の下宿で惨めな気持ちでいた時、ラジオからは「時には母のない子のように」や「フランシーヌの場合は」が流れ一層悲しくなりましたが、今思えば多くの上京学生が同じような思いをした時代だったのでしょ。う。

そして48年春に卒業式もないままに大学を出て、銀行に就職しました。当時は第一次オイルショックで、狂乱物価という言葉が飛び交い、スーパーのトイレットペーパーが買い占められたりする時代でした。

やがて列島改造論の下で、銀行界は不動産融資にのめり込んで行き、右肩上がりの業績を背景にこの世の春を謳歌したのです。

昭和50年代後半から平成にかけては金融国際化のうねりが押し寄せ、その尖兵として、足掛け12年もの長きに亘り米国に駐在しました。家族で過ごしたアメリカ生活の思い出は一生の宝物となりました。

39,000円を超えた辺りを境に株価が一気に下落し、いわゆるバブルがはじけた状況となったのは元号が昭和から平成に変わって間もなくのことでした。そしてこの十数年間は、正に失われた時代として孫の時代にも語り継がれる悲惨な経済状況を呈したのです。

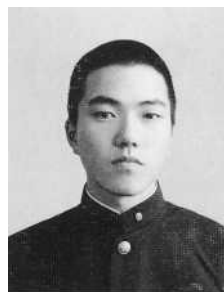
世の中はリストラという名のもとで中高年の離退職が進み、大学新卒の就職率は低下しニートと呼ばれ定職につかない若者が増える不安な時代となりました。少子高齢化、それに伴う年金、医療、福祉問題など、これから齢を重ねていく我々世代には辛い老後となりそうです。

我々は団塊の世代が終わった直後の世代で結構競争も厳しかったうえに、人生の節目、節目で世相を変える程の大きな事件や事象に遭遇することが多くワリを食った世代だと言えるでしょう。

先日、新聞を読んでいて「人生は偶然の積み重ね」という言葉を見つけた時は妙に納得したものです。振り返ればいい時代もあったことだし、いい夢も見せてもらった時期もあったのです。

残る人生にも大いに期待しておきましょう。

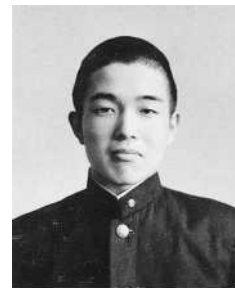
そうした中で、私は31年間勤めた銀行を退職し、昨年4月から中学校から大学院までを運営する学校法人に転籍いたしました。金融界とは文化の異なる世界ですが、若人を育てて送り出すことに夢を馳せて、36年前に東京駅に降り立った時の武者震いを思い出しながら、キャンパスの学生にエールを送る今日この頃です。



鈴鹿 勇二



55歳の参加：遅ればせながら近況報告など（3年3組）小浦 洋二



小浦 洋二

みなさん、お久しぶりです。と、言っても何人の方に私のことを思い出していただけるかいささか不安ですが・・・。

卒業して早36年、今年で55歳、本当に時が経つのは早いものですね。

さて、現在は東京に住んでおりますが、久しく音信不通状態でしたので始めに卒業後の足取りでもお話ししましょう。

私は、昭和49年に大学を卒業(1浪のため)し、安田火災(現：損保ジャパン)に就職しました。

入社研修後広島支店に5年勤務し、昭和53年の同窓会に最初で最後の参加をしたと思います。その後は大阪、東京、大阪、東京、神戸、東京、和歌山と3～5年サイクルの転勤族生活でした。そして、和歌山転勤1年後の一昨年夏に横浜銀行グループの会社へ急遽派遣され現在に至っているという次第です。この会社は、観光地として有名な横浜の山下公園のすぐ側にあります。

いわゆる現役時代は朝7時前に家を出て午後10時頃帰宅(お酒が入ると午前様) 休日も時には自主出勤という生活でした。その当時はこれを当たり前と思い、自分なりにきっちり「家庭人」もこなして特に悔いのない生活をしてきたつもりでした。

現在は、帰宅が午後8時前、休日も完全休養という風に様変わりしています。この歳になって“時間がある生活”を始め、仕事中心の日々を過ごして来た“自分の無さ”に愕然としています。

プライベートな面では、26歳で結婚し三人の息子がいます。上の二人は既に社会人で家を出ており、今は妻と今年大学生になった末子との三人暮らしです。東京に居を構えたきっかけは、長男が高校に進学した年に私が神戸へ単身赴任しその後も息子達の進学の都合上動けなくなったからです。

趣味は「バラの栽培」を3年前からやっていますが、害虫や病気などなかなか難しいものです。一つ又一个鉢を購入するものですから最近は狭い庭が“ちっちゃな”バラ園状態になってきました。では、これから一人でも多くの方とお会い出来ることを楽しみにしています。

<追伸> 末田君から既に10数名の方が亡くなったのを聞きました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

同期会収支報告 平成16年4月1日～平成17年3月31日

| 摘 要               | 収 入     | 支 出     | 残 高     |
|-------------------|---------|---------|---------|
| 前年度からの繰越          | 229,357 |         |         |
| 同期会年会費(118名)      | 118,000 |         |         |
| 舟入・市女同窓会年会費(97名)  | 97,000  |         |         |
| 同窓会年会費払込(案内費用控除後) |         | 67,000  |         |
| 同期会便り印刷・送料他       |         | 58,800  |         |
| 一般通信費及び事務用品費      |         | 13,982  |         |
| 計                 | 444,357 | 139,782 | 304,575 |
| 次年度繰越             |         | 304,575 |         |
| 合 計               | 444,357 | 444,357 |         |

平成17年4月2日

以上のとおり平成16年度会計報告をいたします。

会計報告の各項目について関係帳簿により監査の結果、いずれも適正に処理されていることを認めます。

会 計 渡 辺 潔

会計監査 中原信明



癒しの街 (3年15組) 細見(旧姓 沖田) 恵

卒業後、もう随分経ちましたね。

皆さん、どんな人生をお過ごしでしょうか？ 時おり、仕事上やプライベートで同期生と一緒しますが、そんな時の心安さというか安心感は大事な宝物のように思えます。

今考えると誰もがそうだったと思いますが、様々な不安や不満を抱えながら懸命だった高校時代、その頃育まれたベースは、自分の人生の根っこにあるような気がします。



沖田 恵



道を隔てた畑から見る。



北立面から（土の道）

私は大学の建築学科を卒業し、何はともあれ建築に関わって30年を越し、独立して設計事務所を始めて20数年になります。

先日、吉島に小さな家がありました。敷地が約12坪、建坪が約7坪、延べ18坪弱と、私にとって最小の住宅なのも然り乍ら、その風景がまるで高校時代にタイムスリップしたようで、とても驚きました。

また周辺の人達がどんなものができるかと、興味津々なのはどこの現場でも常ですが、我々への接し方が好意的で皆やさしく、広島を中心地のこんな場所に、わずかに残っていた癒しの街に出会った感じでした。

施主の人柄もあって気持ちの良い現場で、大袈裟かもしれませんが、小さな中に込められた宇宙の広がりを感じました。

改めて広さだけではない建築空間の力を考えさせられました。

息子も大学を卒業し、また次世代へ残すものの大切さを痛感する機会に様々な場面で遭遇します。

一つずつ丁寧なものづくりを続けていきたいと思っています。



玄関ホールからキッチンを見る。

### 《第2回ゴルフコンペの報告》

平成16年9月18日(土)に、東広島市の志和カントリークラブで第2回目の同期ゴルフコンペを開催しました。朝降っていた雨もスタート時には上がり、余り暑くも無く良いゴルフ日和でした。参加者は写真右から尾野本悟(10組)、浜本正周(9組)、岡崎、小堀昭男(13組)、内田隆史(4組)、宮島義輝(11組)、濱田猛(6組)、半明哲由(11組)、の計8名でした。また、撮影係として吉山(旧姓明田)真理子さん(13組)に特別参加して頂きました。

結果は、ベストグロスが88で尾野本君同小堀君、名前は控えますが、ワーストグロスは112でした。優勝はハンディに恵まれて岡崎が頂きました。



岡崎 研児



### 《第3回ゴルフコンペの報告》

平成17年4月16日(土)、廿日市の佐伯カントリークラブにおいて第3回同期コンペを開催しました。

晴天のゴルフ日和でしたが、年度始めて皆さん忙しく、参加者は6名とチョットさびしいコンペでした。(参加者：内田、尾野本、片岡信行(4組)、濱田、浜本、岡崎) 結果は、優勝が濱田君(グロス92、ハンディ15)、準優勝は尾野本君(グロス90、ハンディ12)、ベストグロスが86、ワーストグロスは103でした。片岡君は初めての参加でしたが、年齢を感じさせないスマートなスイングでロングドライブを連発していました。寄せとパットを磨いたら、シングルも夢ではないと感じました。

### 《ゴルフの効用》

私がゴルフを始めたのは33歳頃ですから、20年以上前になります。最近は殆ど有りませんが、当時会社でゴルフ場の設計を複数手がけており、設計したゴルフ場の会員権を会社が持っていたことなどから、付き合い上もゴルフをやった方が良いような雰囲気でした。

昭和63年に長崎に転勤し6年間いましたが、仕事之余り忙しくなかったこともあり、色々なゴルフ場に行きました。長崎は海に面した風光明媚なゴルフ場が多く、非日常を味わってリフレッシュできたことを思い出します。長崎にいる時に、飛距離を伸ばすことを目的に、トレーニングジムに行き始めました。週末の一回だけですが、女房と一緒に現在も続けています。連れがいることと、目的があったことが長続きしている要因のような気がします。

ゴルフの効用としては、「体力づくり」「ゴルフを通じて誰とでも親しくなれる」「年齢に関係なく、今の自分の能力にチャレンジできる」などがあると思います。マイナス面は、「広大な面積を百人前後で占有する贅沢な遊びである」、「造成および維持管理を通じて環境破壊を起こす場合がある」などですが、これらのことは何時も頭の片隅においてプレーしたいと思っています。夢はシングルプレーヤーになることとエージシュート(年齢以下のスコアで回ること)です。遠大でハッター臭いですが、何事も夢や目標がないと面白くないし、続けるためには建て前上も必要ですから…

次回のコンペは平成17年10月30日(日)の予定です。奮ってのご参加をお願いします。